

アメリカに留学されている塩田さんに

# INTERVIEW !

塩田さんは獣医師資格取得ののち、東京大学を卒業され、去年の8月、アメリカのジョージア州にある Emory University(Rollins School of public Health)に留学されました。

現在は疫学を専攻されています。



2013年7月号

## インタビュー

### 司会・進行

日本大学

5年 遠間由佳

### 書記

日本獣医生命科学大学

2年 古谷ゆかり

### ——留学のきっかけを教えてください。

**塩田さん** もともと疫学に興味があって勉強したいと思っていたのですが、公衆衛生学や微生物学教室は自分の勉強したい疫学とは少しずれており、系統立てて疫学を教えてくれる大学が日本にはありませんでした。理科学研究所で学生時代に研究させてもらっていましたが、**疫学を学ぶには海外に行くしかない！と4年生か5年生のときに思った**のがきっかけです。

### ——どうして、獣医学科ではなく国際保健学科(Public Health)を選ばれたのですか？

**塩田さん** 疫学を一から学ぶには、国際保健がよくて、さらに調べた結果 Emory だと思ったのです。あと、CDC にとっても近くて、共同研究を行っていたり、先生もたくさん教えに来てくれるから、というのも大きいです。人に聞くのが一番いいと思ったので、日本で疫学をやっている先生にメールをしたりして、コンタクトを取っていきました。そうしているうちにアメリカの有名な先生を紹介していただいたりして、**メールで知り合いが増えて、半年くらいで様々な先生とつながりができました。**

“山ほど調べなきゃいけないことがあって、それを1からネットで検索していく作業がとてもストレスフルでした。”

——留学準備で困ったことはありますか？



**塩田さん** JRE(日本で言うセンター試験)や TOEFL をいつまでにどれくらいスコアを取ればいいのか、などの**情報がなく、1から全てネットで調べなければいけなかった**のが辛かったです。中国や韓国と違ってこういった試験の問題集もないので、大変でした。私の前に留学された東大の獣医の先輩は8年前に一人だけで、しかも8年前とは制度が変わって

しまっていて、話は伺いましたがあまり参考になりませんでした。出願では日本の獣医大を6年で卒業したという履歴は、

アメリカでいう普通4年間で終わるはずのアンダーグラデュエイトに6年いたと書かないといけなくて、そうすると2年間留年したと思われてしまいます。なので、**事前に教授に連絡を取って状況を説明しなくてはなりません**でした。また、出願が電子化されたことで、アンダーグラデュエイトの専攻の選択肢に **veterinary science** がなくて、テキトーに選んでました(笑)

第三者機関にお金を出して、日本の **bachelor of veterinary medicine** という獣医学科卒業の称号がアメリカの **doctor of veterinary medicine**(獣医師資格)にあたるかあたらないか、ということ審査してもらい、その結果を大学に提出する、というのがありました。**この審査が350ドルもかかり、審査員によって結果が異なることもあ**

—留学をしている今の1日のスケジュールなど、キャンパスライフについて教えてください。

**塩田さん** 1日2〜3コマの授業があって、宿題が本当に一晩ずっとかかる感じですね。**予習をして、スライドや録音を聞いて復習をして、宿題やって、と**いうのを繰り返しています。

私は今肺炎球菌のバイオフィルムに関する研究をしていて、よく、CDC(アメリカ疾病予防管理センター)からもデータをもらいます。

**“WHO が最も現場に近いところで働いているところを見たかったんです”**

—WHO でのインターンシップを獲得された、と聞いていますが、どのような内容のインターンなのですか？

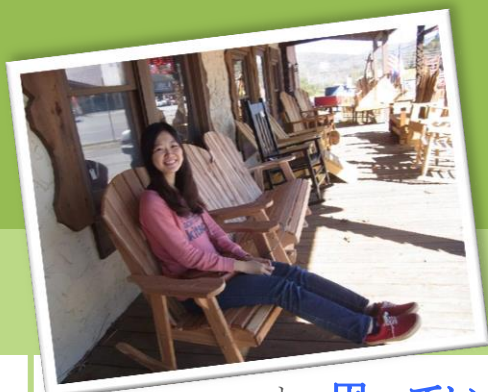
**塩田さん** 9月の終わりから1ヶ月ほど、タイでインターンさせてもらいます。**WHO が現場に近いところで働いているところを見たかったので、本部よりこちらを選びました**。内容は食の安全と人獣共通感染症についてです。サーベイランスを行って疫学的解析を行ないます。

—この1年で苦労したことはありますか。

**塩田さん** 私がアメリカ人でないという理由で、マダガスカルでのサンプリングが出来なかった、ということがありました。**アメリカ人の学生は行くことが出来たのですが、私にはファンディングがおりませんでした**。

“「卒業したらこうするんだ」という風に決めつけてはいないです。”

——修士課程は2年で終わりですよ？卒業後はどのようにされる予定ですか？



塩田さん アメリカでこのまま博士課程に進む予定です。今の研究が現場に近い研究で、とっても楽しいで

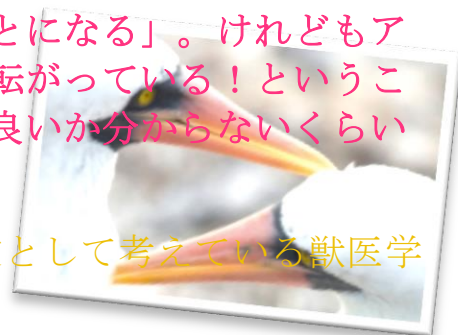
す。困っている人たちを目の前にして、サンプルをとり、データ解析、研究をして問題解決をする、という流れがすごく好きなんです！アメリカに来て、選択肢がすごく広がって、「卒業したらこうするんだ」という風に決めつけてはいないです。日本にいたときは、大動物に行くか、小動物に行くか、製薬会社に務めるか…など、将来の進路が数個しかない気がしていたのですが、今は呼ばれたところに行ってもいいし、自分が必要とされるところに行ってもいいし、と考えるように

——授業を受けている中で日本での獣医学の勉強が活きていると感じることはありますか？

塩田さん あります。人獣共通感染症の研究のときなどは一人の獣医師として問題提起をして、スタディデザインをどう思うかということへの意見を採用されたこともありました。周りの学生には医師が多いので、そういった人たちも背景知識が今の授業に活きているだろうと思います。

“「生半可な気持ちでトライしてしまうと大変なことになる」。けれどもアメリカに来て思うのは、チャンスは本当にゴロゴロ転がっている！ということ。チャンスがありすぎてどれをピックアップして良いか分からないくらい…！”

——留学を目指す獣医学生へ、あるいは留学を選択肢として考えている獣医学生にメッセージをお願いします。



塩田さん 留学に来て良かった、と思っている人と同じくらい、実際には留学で失敗している人も多いと思います。留学を選択肢として考えて欲しいと思う気持ちはありますが、同時に留学する際に本当に大変だったこともものすごく多かったので、「生半可な気持ちでトライしてしまうと大変なことになる」、ということだと思います。留学をするなら5年生の9月には決めていて欲しいのでそれを目標に、今悩んで欲しいと思います。アメリカに来て思うのは、チャンスは本当にゴロゴロ転がっている！ということです。学位取得目的の正規留学では、先生方が本当に親身になって学問を教えてください。「こんな先生と話せるとは！」と思うくらいの先生と話せることもありました。母国でどれだけ留学を応援してくれる先生がいるのか、というのをもっ

#### 編集追記

貴重なお時間をさいて下さった塩田さん、司会・進行を務めて下さった由佳さん、本当にありがとうございました。留学は私が想像していた以上に大変で、しかし、とても有意義なもののだと今回知ることができました。研究や勉強を含め、今の生活をとても楽しまれている塩田さん。今後のご活躍も期待しています！

古谷ゆかり